

子どもの成長と社会

「子どもの社会力」にみる子どもへの影響と変化

21211300 保園 裕騎 (21211300yh@tama.ac.jp)

1. はじめに

私の所属は杉田ゼミであり、余暇時間について勉強してきた。そこで私は余暇を楽しむ心は養う必要のあるものと学び、余暇を楽しむ心の育成には幼少期からの体験活動が大きいのではないかと考えた。最近、子どもの自殺や虐待、ひきこもりといったショックの大きい事件が表立って取り立たされているが、心に傷を負った子どもが純粋に余暇を楽しむことができるとは考えにくい。よって本研究では、子どもの現在起こる問題を調べ、子どもが健やかに育つために必要なものは何かを明らかにする。

2. 内容

筑波学院大学の学長であり教育社会学を研究している門脇厚司氏（以下、門脇氏）の著書「子どもの社会力(1999 岩波新書)」によると「社会力」が十分に養われていない事がこれらの事態を招いているという。社会力とは門脇氏の造語であり、同書において「社会を作り、作った社会を運営しつつ、その社会を絶えず作り変えていくために必要な資源や能力」としており、確かな社会力には「他者を認識する能力」と「他者への共感能力ないし感情移入能力」という基盤が必要であると述べている。また、上記の力は他者との相互行為をもって育まれるものであり、幼少期からの教育が必要であると述べている。

要するに、今の子どもには社会力という他者を理解し自身の環境を自分の手でより良いものに変えていく力が欠如しており、その結果前述のような問題が発生しているのではないかと、という事である。前述の定義に則って原因を探るとそれらしいデータがいくつか見受けられた。さらに、大人の社会力も低下しているのではないかとという新たな疑問も生まれた。

3. 提案

これらの問題解決の案として「相互間的な地域育児コミュニティの育成」を挙げる。相互間的な地域育児コミュニティとは地域が親の育児の手助けと子どもへの他者との交流の場を提供することで確かな社会力を身に付けさせるためのものである。そのためには親の積極的な育児への参加と地域の変革が求められるが、それらは今後の研究課題とする。

http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h26gaiyou/pdf_indexg.html